

体験に勝るものなし

2024.9.2

「体験に勝るものなし」といわれる。百聞は一見に如かずという言葉もある。いくら話を聞いても、実際に見てみないとわからない。そのうえ、見るだけでなく、実際に体験してみれば、いろいろなことがわかる。そうだったのかと理解できる。そして、考えることができる。

中学生の職場体験もそうである。1学期に、中学2年生が来てくれた。2学期になり、先週は、また違う中学校の2年生が来てくれた。「園長先生と話そう」ということで、中学生と話をした。

将来、子どもに関わる仕事をしたいという。保育士になりたいという希望をもっている。幼稚園と保育所の違い、認定こども園のことを確認した。幼稚園教諭と保育士の違いについても話した。幼稚園教諭は、幼稚園教員免許が必要である。保育士は、保育士資格が必要になる。認定こども園になると、両方の資格が必要である。幼稚園教員免許は、短期大学で二種、大学で一種資格が取得できる。保育士資格は、大学、短期大学、専門学校または国家試験で取得できる。

ここから、逆算して考えていく。大学に進学する。そのために、どこどこの高校に入る。今の自分で、目指す高校に入れそうだろうか。何が足りないのか。そして、やるべきことを絞り、目標を設定する。それを実践していく。

幼稚園なので、幼稚園教諭と保育士で考えてみたが、違う職業でもかまわない。一度、逆算して考えてみるのが大事なのではなかろうか。そうすると、将来のことが見えてくる。中学生の職場体験は、直接、その仕事を体験できることが一番大きいのは確かである。加えて、自分の将来のことを考えるきっかけになっているように感じる。まだまだおぼろげでもかまわない。仮のゴールでもよいから、そこから逆算してみる。そんなことをしてみるよい機会である。

先週、来てくれた中学生は、自分から考えて行動できる人だった。ずっと、園児たちと一緒にいて、次から次へと、新たな発見や気づきがあったはずである。先生方がどのように園児たちと接しているのかもよく見ていた。それゆえ、子どもたちを教育することのむずかしさもわかったはずである。

その中学生にこんな話をした。「幼稚園には教科書がないんだよ。すごいと思わない？教科書があれば、今日は何ページといえるけれど、それがいいんだよ。先生方は、園児たちを自由に遊ばせているように見えて、一人一人の子をよく見ているし、その子に合わせた声かけをしているんだよ。先生方の頭の中は、いつもいろいろなことを考えていると思うよ」

その中学生は、この話をうなずきながら聞いてくれた。その目は、納得できている本物の目だった。やはり、体験に勝るものなしである。中学生のこれからの成長が楽しみである。5日間の職場体験が、中学生のさらなる成長を促すに違いない。